

ぶらさがり記者会見（4月19日（土））

大臣） 今回、第6回ASEAN+3文化大臣会合に日本の文部科学大臣として初めて出席をいたしました。これは、昨年の日・ASEAN交流40周年と日・ASEANの友好協力に関する合意もふまえ、日本として、今後ASEANとの協力を文化面でも更に具体的な形で進めていく用意があるというアピールと、それからベトナムとのさらなる交流、首相も日本に来られましたし、それを加速させるという意味でのベトナムに対する日本の姿勢のアピールという意味でまいりました。また、このような場として、ASEAN+3文化大臣会合とは別に、今回初めてでございますので、せっかくきましたので、このASEAN+3とは別に、明日の朝ですが、日・ASEAN文化大臣会合を行うことを私から提案し、実現することとなりました。

先ほど、行われたASEAN+3文化大臣会合の場で、こうした日本の立場を明らかにするとともに、日中韓の間でも東アジア文化都市構想をはじめ文化交流が進展していること、文化都市事業を展開している日中韓、ASEANとの間での将来の連携の可能性、さらに、2020年東京オリンピック・パラリンピックをスポーツの祭典であると同時に文化芸術の祭典とできるよう、日本の文化力を高めていく方針であるということについて私の方でプレゼンいたしました。さらに、今回初会合となる明日の日・ASEAN文化大臣会合においても、日本の今後の対ASEAN協力の方針について説明する予定であります。

また、ASEAN+3大臣会合に先立ち、議長国ベトナム関係者との昼食会を行い、文化分野、スポーツ分野、留学分野等、幅広い分野における今後の具体的な協力についての意見交換も行いました。私の方からは以上です。

記者） 大臣はこちらにいらっしゃる前に、中国の大臣との会談について申入れをしているとのことで、今日は会合の場で、始まる前に中国の大臣と言葉を交わされていましたが、どんなことを話されましたか。

大臣） 中国、韓国の文化大臣とは昨年9月韓国で、安倍政権としては唯一ですけれども、日中韓の文化大臣会合を行っています。残念ながら韓国は大臣はこられないということでしたが、中国のほうはそのときも来られていた蔡文化部長は来られていたので、是非バイ会談をとということで申し込んでいましたが、今日の午後に来て、明日の早朝には出られるというので日程がつかなかったので、ASEAN+3の前に、蔡部長とは立ち話ですが話すことができました。政治的な日中韓の課題はあるけれども、文化・スポーツ関係はこれは更に交流をしていきたいと思いますとお互いに話したところです。

記者) 会合の間ではありましたけれども、そういった確認ができたことをどう受け止めていますか。

大臣) これは、蔡部長の人柄でもあると思いますが、最初バイ会談がなかなかこちらから申し込んでも日程が取れなかったので、避けているのかと思っていましたが、本当に日程がタイトであってということが話としてもでていましたし、純粋に日本と文化の交流について進めたいということを蔡部長も思っていたらしく感じました。

記者) 短時間ではありましたが互いに意見の疎通が図られたとお考えでしょうか。

大臣) そうですね。

大臣) それから、韓国は、実際は肩書がアジア文化センター都市推進団長のキム・ソンイル、会場では副大臣として紹介されておられましたが、韓国のフェリーにおける事故のお見舞いと、日本は海上保安庁、海上自衛隊が救助に行く準備をしているので、是非役に立てることがあれば、役立ちたいと申し上げました。キム・ソンイル団長からは、それは帰国したらすぐ関係大臣に伝えるという話がありました。

記者) 今後、改めて中国、韓国の大臣とは二国間の会談の機会を持ちたいとお考えですか。また、文化交流の促進は具体的に何かお考えはありますか。

大臣) これは、韓国も中国も東アジアの文化都市交流を中心とした文化交流を中国、韓国だけでなく、ASEANに広げたい、促進したいということがそれぞれの立場から話があったということを見ると、これは日中韓は日中韓として進めていますし、今年も既に進めておりますけれども、文化都市交流の拡大を互いに考えながらこれからも連携できればと思います。

記者) テーマが違うので多分なかったと思いますが、教科書の問題とか、歴史認識の問題については話はなかったですか。

大臣) それは全くなかったですね。